

# 観光連携シンポジウム in ATSUGI

コロナ禍において疲弊した観光も、様々な試練を経て新たな局面を迎えようとしています。その試練の中でマイクロ・ツーリズム、ワーケーション、バーチャル・ツーリズムなどという様々な言葉も飛び交いました。これらが危機的な状況での一過性のものなのか、新たな旅行形態として定着するものなのか、そしてコロナ前に推進してきた観光の方向を踏まえ、今後どのような舵を取っていったらよいのか、今まさに今後の観光を考える重要なときであるといえましょう。

このような中、厚木市観光協会は七沢温泉、飯山温泉、広沢寺温泉などの温泉地の統一名称を“あつぎ温泉郷”と定め、地域一体となったPR活動を推進しようとしています。

一方、伊勢原市、愛川町、清川村そして厚木市からなる県央姉妹都市構想の推進、また神奈川県観光核づくり事業では大山を中心として伊勢原市、秦野市そして厚木市の連携事業が実施されています。平塚市、相模原市、伊勢原市そして厚木市の広域連携事業も模索されています。

こうした域内や域外における連携強化は、今後の観光振興における運営組織の強化と効果的な事業実施において不可欠であるといえます。特に様々な観光資源に恵まれていながら今1つ地域の観光ブランドイメージが希薄なこの一帯において互いの連携による観光振興の推進は大きな相乗効果をもたらすものと期待されます。また、農業や自然環境保全など関連施策・事業の連携による効果拡大も求められているといえます。

今回、松蔭大学メディア文化学部においては、僭越ながら地域内外及び事業の横断的な連携をさらに強化・推進するための一助となるべく、関係各位のご協力を得て、今後の神奈川県内における各種観光連携活動について共に考える場として“観光連携シンポジウム in ATSUGI”を開催することといたしました。

本シンポジウムが、今後の産官学そして神奈川県内各地域におけるさらなる観光連携活動へと持続するきっかけとなることを望むものです。

- 日時: 令和5年度6月24日土曜日13:30~16:30
- 会場: 松蔭大学松蔭ホール(厚木市森の里若宮9-1)
- 主催: 松蔭大学観光メディア文化学部
- 後援: 神奈川県、厚木市、厚木市観光協会(予定)
- 参加費: 無料



13:00 受付開始

総合司会: 夏目 千恵子 (松蔭大学観光文化学科)

13:30~13:45 開会の挨拶 松蔭大学副学長 松浦 広明

13:45~14:15 基調講演: 厚木市市長 山口 貴裕

14:15~14:45 課題提起: 松蔭大学観光メディア文化学部長 古賀 学

14:45~16:15 シンポジウム

テーマ: 地域内・地域外連携による観光振興

パネリスト

- ・七沢観光協会会長/黄金井酒造社長 黄金井 康巳
- ・レンブラントホテル取締役総支配人 早寄 慶一郎
- ・リンクボール株式会社代表取締役 福島 大地
- ・神奈川県観光課 岸本 啓

コーディネーター: 高橋 敏哉 (松蔭大学メディア情報学科長)

16:15~16:30 閉会の挨拶: 松蔭大学 鈴木 秀顕 (松蔭大学メディア情報学科)  
記録・映像: 秋廣誠 (松蔭大学メディア情報学科)